

# 平成31年度 保育園事業 事業計画

## 1. 事業計画の概要

保育園を取り巻く状況は極めて厳しく保育の受け皿拡大として保育園、こども園、認可外、小規模、企業主導型等が整備されている一方で保育士不足も増々深刻な問題となっている。当園でも人材不足は数年前より影響を受け、これまで人材紹介、派遣等も利用し確保に努めてきたが派遣保育士の時給の上昇は自園採用の非常勤保育士の時給単価にも影響しているだけでなく正規雇用から遠ざかることも考えられる。30年度は求人広告、就職フェアを多く利用したが採用に至らなかった。国や市の保育士確保就業支援施策を活用し引き続き人材確保に努めてゆく。

### <各園の取り組み>

(るり保育園) 保護者と共にこどもの成長の理解を深めながら、職員同士も情報を共有し、思いやりと感謝の心を育てる保育園を目指す。乳児保育園2園から進級してくる3歳児の獲得を行い将来的には3歳から5歳の幼児中心の園を目指す。園児一人一人が幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を想定して保育指導計画を立てる。

(乳児保育園) 新園舎にも慣れ、流れ(保育・環境)を整える。徐々に園児を増やすとともに保育の質を向上させる。“遊び”を通して学び、心身共に成長できるよう丁寧な保育を心掛ける。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えて保育する。

(るり(2)みろく(2)) 夜間保育園のニーズが減り閉園の方向で進める一方で、乳児保育園の定員増員を考える。要保護児童の入所が増加傾向にある為、乳児院はじめ各関係機関との連携を職員全員が出来るよう育成していく。

(4園共通) 子育て支援、乳児院(こんにちは赤ちゃん)との連携

(こどもの家) 小学校のいきいき教室との違い、良さを探究し学童期の児童及びその家庭を支える。

## 2. 利用者の視点「サービスの質の向上へ」

### A) サービスの質の向上

- ・一時保育事業の充実 一時保育専用の保育室にて保育することで利用しやすくする。
- ・地域子育て支援拠点事業の充実・・・地域交流スペースの有効活用。
- ・放課後児童健全育成事業(こどもの家) 夏休みから児童館へ戻る。高齢者デイとの交流

### B) 保育環境整備

- ・空調機整備(駅前) ・室内屋外遊具、備品購入(乳保)
- ・老朽化、水漏れ箇所修繕(3号館)

## 3. 地域への貢献「地域の福祉課題への取り組み・コミュニティー形成」

### A) 地域との協働・連携・貢献への取り組み

- 1) 地域子育て支援拠点事業 内容、連携
  - ・子育て支援拠点事業(センター型)として地域の子育てサロンへ参加
  - ・住吉区子育てプラザ、住吉区社協との連携。
  - ・講座計画(保健師・乳児院・栄養士・歯科などに協力要請)を実施。
- 2) 地域行事の参加

- ・ 苧田・苧田北地域の行事に参加。
- 3) ボランティアの受け入れ
  - ・ 介護予防ポイント事業のボランティアを受け入れ。(園庭手入れ・園外行事・子育て支援)
- 4) 福祉避難所の体制づくり
  - ・ 乳幼児及び妊産婦またその家族等 保育園の空きスペースを利用

#### 4. 組織プロセス（実施体制・労働環境等）の再構築

##### A) 働きやすい職場環境の整備

- ・ 職員アンケートの実施（年1回以上）。
- ・ 休憩場所と時間確保、全員の年休消化率（年5日確保、人材補充が出来たら取得日数によりパーセンテージを上げる）
- ・ 苦情解決マニュアル・事故対応マニュアル・ヒヤリハット報告書等の見直し整備

#### 5. 人材育成・定着・確保

##### A) 人材の確保・育成

- ・ 実習オリエンテーションを大切にし、楽しく有意義に実習が受けられるように説明する。基盤作りをする事によって、実習生からの採用ルートの確保につなげる。養成校訪問も行う。
- ・ 就職フェア、イベントへの参加
- ・ 養成校就職サポートセンターへ各学校指定の求人票を提出
- ・ 子育て支援員の採用(無資格から子育て支援員講習受講も視野に)
- ・ 放課後児童指導員講座の受講
- ・ ハローワーク・大阪市保育士保育所支援センターの活用

##### B) 教育体系の整備

- ・ 主任をフリーに配置し、日々の保育や園内外の行事を活発化させる。(子育て支援、関係機関との連携) また後輩の育成にあたり、自分達も関連に意見が出し合える環境を作る。
- ・ 処遇改善による階層別の研修体系(キャリアアップ研修)の構築。
- ・ 個別研修計画の立案。
- ・ 外部、内部研修の参加。

#### 6. 財務基盤の安定

- ・ 入所を利用定員まで引き上げる。区役所と連携。
- ・ 人材確保により各種補助金加算を受ける。